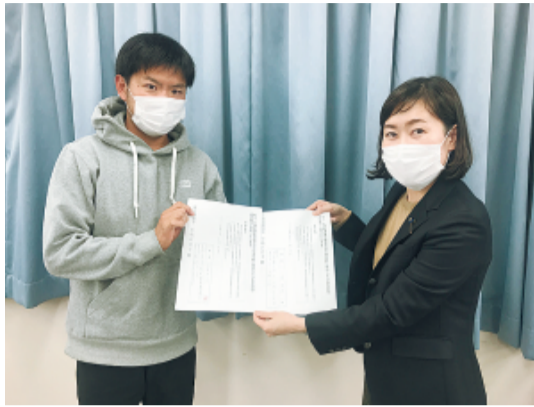


建設国保への補助金を求める 賛同都議は96%超に



豊島支部の桑山社保対部長(左)は米倉都議から署名を受け取る



最高裁前での早朝宣伝

アスベスト 原告先頭に最高裁前で宣伝

建設アスベスト訴訟は10月22日に神奈川ルート1陣の最高裁弁論が行なわれましたが、判決日に関しては「追っ」訴訟全国連絡会の行動として、最高裁前での早朝宣伝に取り組み、原告を先頭に弁護団、支援組合のメンバー約40人が参加しました。今年、最高裁前での行動はコロナ禍がある中でも、6度行なってきました。

この日も、最高裁前に「提訴12年 最高裁は被害の実態を受け止め 早期に全面救済の判決を」と書かれた横断幕を掲げ、出勤してくる職員たちに、10月22日の最高裁弁論での栗田博子さん(遺族原告)の意見陳述の抜粋が掲載されたチラシを手渡ししました。

また、マイクで「一日千秋の思いで待つ原告に救済判決を」「追って指定」は原告にとつては生殺しにあっているようなもの。一日も早い判決を」と強く訴えました。

東京土建は、東京都連傘下の組合と協力して毎年都議会議員の皆さんに、「建設国民健康保険組合への東京都補助金についての賛同署名」をお願いしています。賛同署名をいただいた議員は以下の皆さん(11月30日現在、2336号で83人はすでに掲載)です。今後も引き続き要請をすすめます。

- 【板橋区】木下富美子(都)、平慶翔(都)、宮瀬英治(立)
- 【豊島区】本橋弘隆(都)、長橋桂一(公)、米倉春奈(共)
- 【港区】入江伸子(都)
- 【千代田区】樋口高頭(都)
- 【中央区】西郷歩美(都)
- 【品川区】山内晃(都)
- 【大田区】森愛(都)、栗下善行(都)、藤井一(公)、遠藤守(公)、藤田綾子(共)、神林茂(自)、鈴木章浩(自)、鈴木晶雅(自)
- 【目黒区】伊藤悠(都)、星見定子(共)
- 【渋谷区】龍岡愛梨(都)
- 【武蔵野市】鈴木邦和(都)
- 【北多摩第3】林明裕(自)
- 【立川市】増田一郎(都)
- 【昭島市】内山真吾(都)
- 【西多摩】清水康子(都)
- 【小金井市】辻野栄作(都)
- 【北多摩第2】岡本光樹(都)
- 【府中市】藤井晃(都)
- 【八王子市】滝田泰彦(都)
- 【日野市】菅原直志(都)
- 【南多摩】石川良一(都)
- 【小平市】佐野郁夫(都)
- 【西東京市】石毛茂(都)

都議会開会日に合わせ行動 都はコロナ対策急げ



都庁舎に向けてシュプレヒコール

2020年第4回都議会本会議が11月30日開会、これに合わせて東京地評、都民連、東京社保協は昼休み時間に都庁第一庁舎前で集会和宣伝を108人(東京土建は60人)の参加で行ないました。

政へ転換を」と訴えました。各団体からの決意表明では、営業時間短縮要請で廃業の危機に立たされている飲食業者の実情(東商連)、医療現場での逼迫した状況(都立病院の充実を求める連絡会)などが述べられました。行動に参加した練馬支部の肥野信彦さんは「まず都は国と兵にコロナ対策をしっかりと進めてもらいたい。障害者・高齢者への福祉、子どもの教育への施策を厚くしてもらいたい」と話していました。

豊洲現場で5度目の行動 3密回避は良好も

11月30日、豊洲6丁目現場(元請・清水建設)で、東京土建本部と都心部連携協議会参加支部総勢38人で退場時宣伝行動を行ないました。当現場での宣伝行動は通算5回目になります。



従事者にアンケートをとる江東支部の行動参加者

この日の行動では、建設キヤリアップシステム、12月6日の建設従事者ホットラインのチラシやマスク、タオルなどの入った袋を退場者に配りながら、スバットランケーターで賃金や現場のコロナ対策状況などを聞き取りました。また冷え込みが厳しい中、温かい飲み物も用意しました。

現場のコロナ対策では、朝礼、詰所での3密はおおむね「しっかりしている」という回答。賃金では、昨年と比較して「変わらない」との回答がほぼ3分の2を占めました。しかし、電気・40代・経年22日にも行ないました。

区議会6会派も参加し 公契約学習を実施



古川講師

荒川

区議会から6会派、来賓で荒川区労連、連合荒川、自治労が参加し、総勢40人でした。講師は全建総連顧問弁護士

【荒川書記・船橋賢一通信員】11月25日、全建総連東京都連荒川区建設協議会はサンパール荒川で区議会各会派向けの「よい公契約を考える学習会」を行ないました。荒川区は東京土建や東京春闘共闘とのこ数年の懇談で、条例制定に否定的な姿勢ではなくなってきました。今後は、労働組合と業者団体が区議会各会派とも連携しながら、区理事者に繰り返し要請をしていくことが課題になります。

杉並 PCR徹底が有効 竹崎医師を講師に学習



学習会には30人が参加

【杉並・書記・喜多正之通信員】11月19日に杉並支部会館に約30人が集まり(東京土建は9人)天沼診療所長の竹崎三立医師を講師に杉並社保協主催の学習会を開催しました。学習会では新型コロナは高年齢層だけでなく若者でも重い後遺症を患う人もいて油断できないこと、交叉免疫など諸説あるが、マスクをして手を洗うこと、PCR検査の徹底が有効との話がありました。

税後の経済状況にも触れて、政治の役割を果たせることが大切とのことでした。質疑応答のなかで仲間から、知人の子どもが39℃の熱を出してPCR検査は陽性、親も38℃の発熱があったのにPCR検査を受けられなかったとの報告がありました。公衆衛生の体制整備が不可欠です。閉会の挨拶は杉並社保協の代表幹事の鎗田登美雄副委員長が行ないました。